

## 第 1 章 狭山市の市勢

## 第1章 狭山市の市勢

## 1. 市の概況

## (1) 概要

本市は、飯能市に源を発し荒川へ注ぐ入間川の両岸に開けた沖積層の低地と、これに連なり緩やかに広がる洪積層の台地からなり、左岸は入間台地と、また、右岸は武蔵野台地と呼ばれています。

市域の面積は48.99km<sup>2</sup>、埼玉県の南西部にあって東京都心から35kmから40kmの距離に位置していることから、立地条件にも恵まれています。

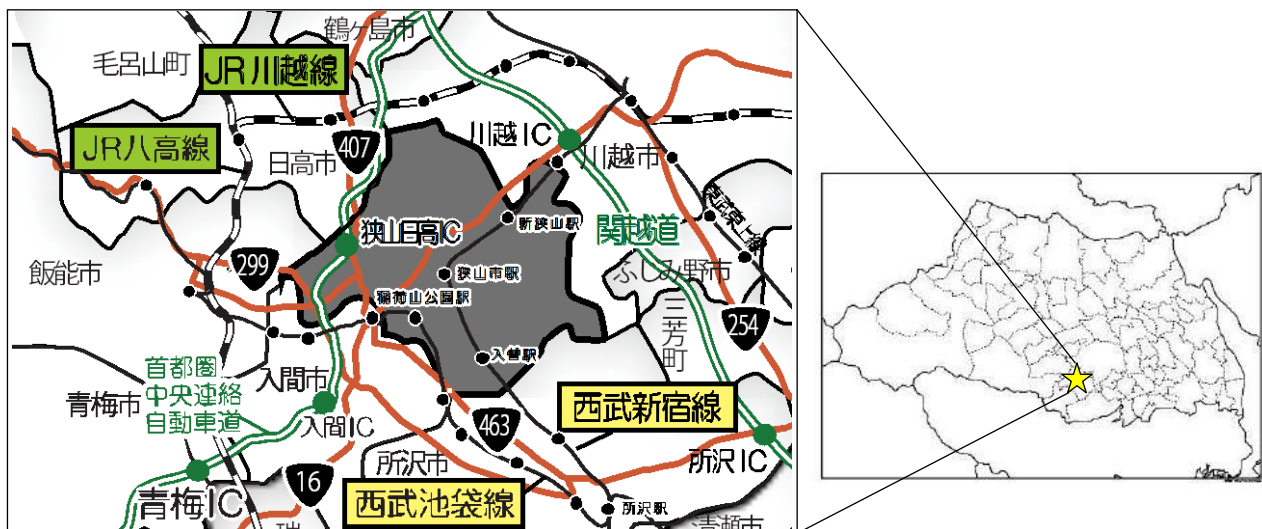
市内には、入間川や不老川などの河川が流れているほか、入間川の河岸段丘に沿って斜面林が連なり、また、市の南部には江戸時代の新田開拓のなごりを残す畑や平地林が広がり、緑豊かな田園景観を形成しています。

図表 狭山市の概要

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 面積    | 市の位置及び面積<br>48.99km <sup>2</sup> （東西最長 10.6km 南北最長 9.3km）<br>市街化区域 14.42km <sup>2</sup> 、調整区域 34.62km <sup>2</sup><br>（田 1.227km <sup>2</sup> 、畑 11.537km <sup>2</sup> 、宅地 13.689km <sup>2</sup> 、山林 3.288km <sup>2</sup> 、<br>雑種地 4.685km <sup>2</sup> 、その他 14.614km <sup>2</sup> ） |
| 人口    | 平成27年1月1日現在<br>総数<br>154,288人（男：77,751人、女：76,537人）<br>世帯数<br>66,173世帯（1世帯当たりの人員：2.3人）<br>人口密度<br>3,149人/km <sup>2</sup>                                                                                                                                                              |
| 主な交通網 | 鉄道路線及び駅数<br>西武新宿線 3駅（入曽駅、狭山市駅、新狭山駅）、西武池袋線 1駅（稻荷山公園駅）<br>道路<br>国道16号線・299号線・407号線、首都圏中央連絡自動車道                                                                                                                                                                                         |

（出典）第4次狭山市総合計画基本構想

図表 位置図



## （２）沿革

本市の誕生は、昭和29年7月1日で、入間川町、入間村、堀兼村、奥富村、柏原村、水富村の1町5か村の合併により、埼玉県内15番目の市として発足しました。当時の人口は31,030人で、のどかな田園風景の広がるまちでしたが、昭和39年に川越・狭山工業団地が操業を開始すると、県内トップクラスの工業都市へと変貌しました。また、武蔵野の美しく豊かな自然環境と首都近郊に位置する地域特性をあわせ持っていることから、住宅都市としても発展し、狭山台団地が完成した昭和50年には人口も10万人を突破しました。

平成8年には、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）狭山日高インターチェンジが完成し、平成19年には関越自動車道と中央自動車道が、さらに平成26年には東名高速道路が結ばれたことで、交通の利便性も高っています。

現在では、人口は減少傾向にあるものの、約15万4千人を擁し、埼玉県の西部の中核的な都市のひとつとなっています。

（出典）第4次狭山市総合計画基本構想

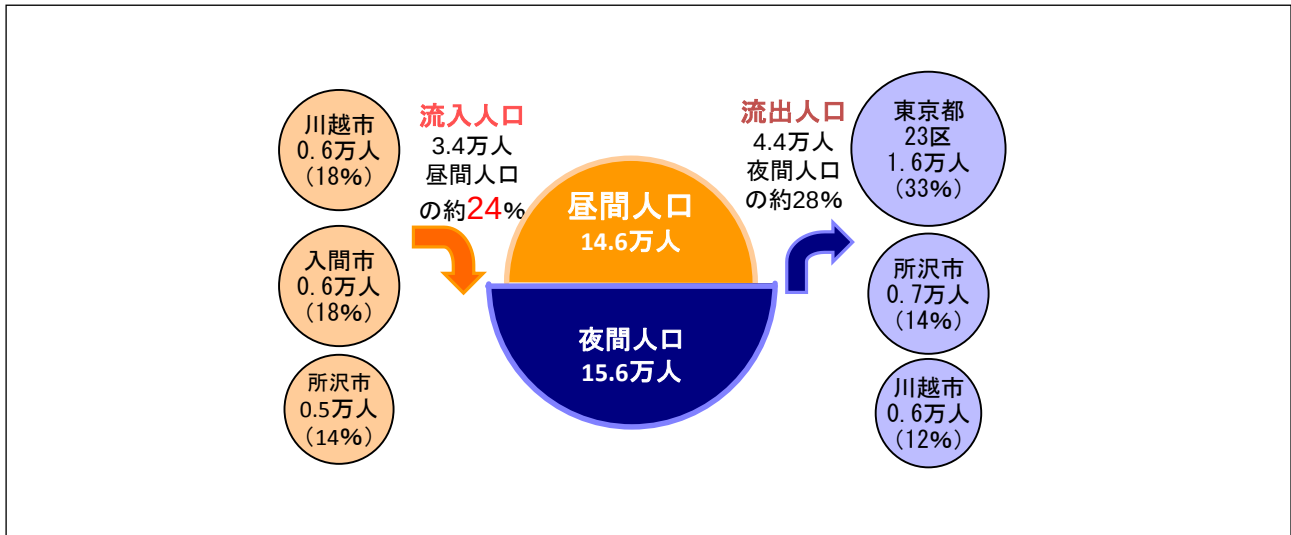
### (3) 市民の1日の流出入状況

本市は、夜間人口が昼間人口を6%上回る、流出超過となっています。

流入人口は、川越市や入間市等の周辺市町から3.4万人流入しており、昼間人口の約24%を占めています。一方、流出人口は、4.4万人で夜間人口の約28%を占め、東京都23区や周辺市町へ流出しています。

このように、本市は周辺市町の就業の場であるとともに、東京都のベッドタウンとしての2つの性格を有する都市であることがわかります。

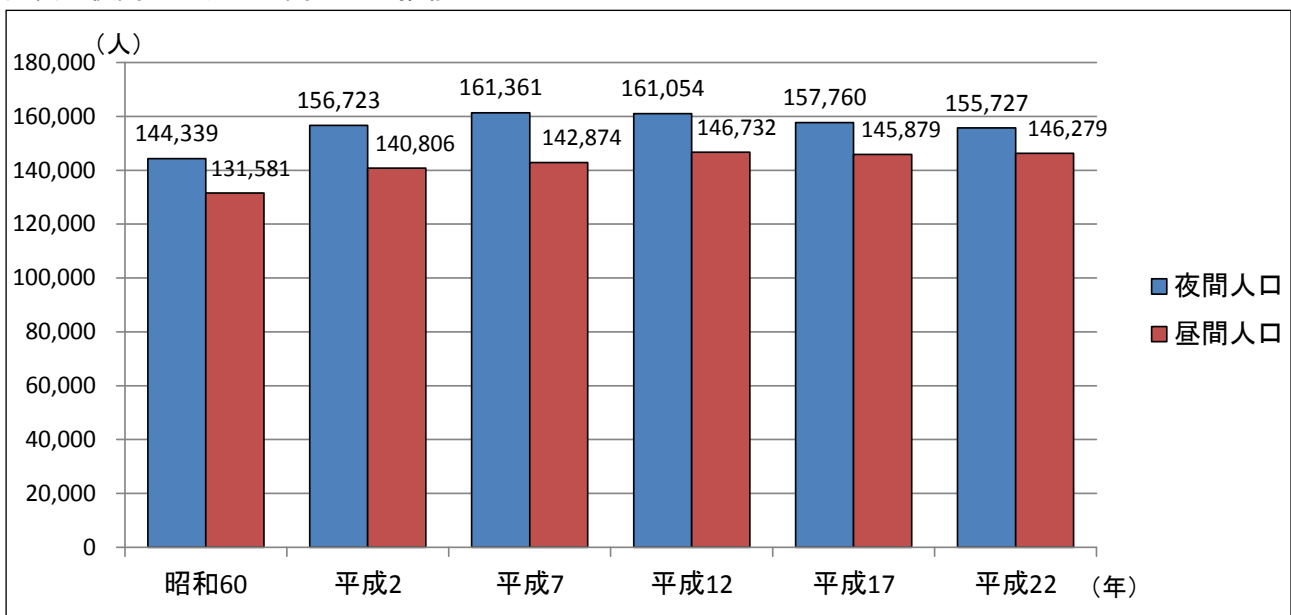
図表 流出入人口



(出典) 平成22年国勢調査

夜間人口は、平成7年をピークに減少傾向となっていますが、昼間人口は平成7年以降も微増傾向となっております。流出人口の減少率が、平成12年以降大きくなっていることを考慮すると、昼間、狭山市で活動する市民が増加していると考えられます。

図表 夜間人口及び昼間人口の推移



(出典) 国勢調査

## (4) 道路・鉄道等の状況

## ■ 道路交通網

本市には主要道路として、北東から南西に走る国道16号を中心に国道299号、同407号が走っているほか、南北に県道所沢狭山線、北東から南西へ県道川越入間線が走っています。

また、圏央道が市内西部を走り、狭山日高インターチェンジ利用で関越自動車道鶴ヶ島ジャンクション、中央自動車道八王子ジャンクションへのアクセスが良好となっています。

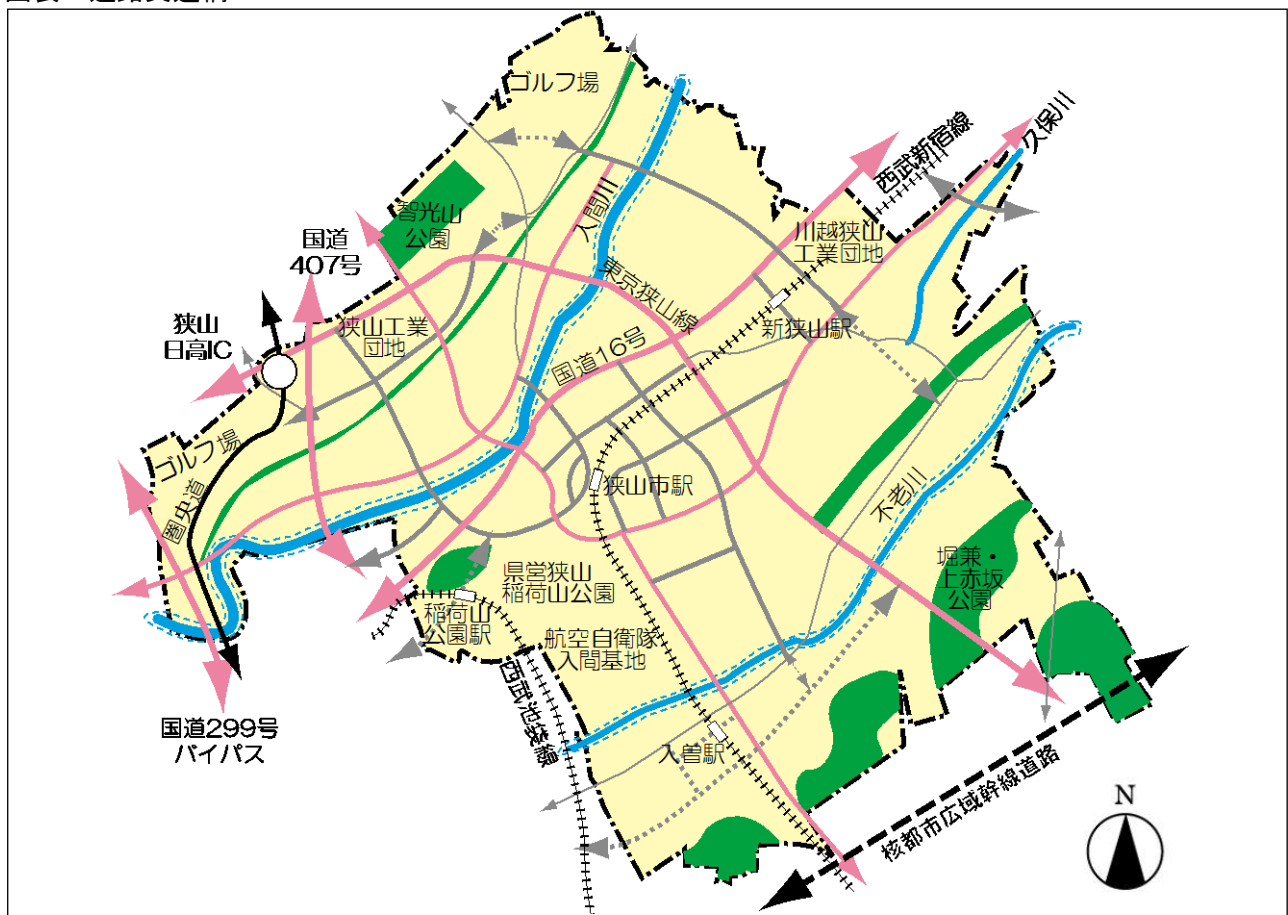
都市計画道路については、東京狭山線（所沢から市内までの1.9km区間）が平成25年3月に開通し、東京方面からのアクセスが向上したほか、狭山市駅加佐志線（狭山市駅東口土地区画整理事業地内）が開通し、駅周辺道路も整備されています。

## ■ 鉄道・バス

本市の鉄道については、西武新宿線の狭山市駅、新狭山駅、入曽駅と西武池袋線の稲荷山公園駅の4駅があります。市の中心に位置する狭山市駅は特急電車「小江戸号」の停車駅であり、狭山市から新宿までは約40分、また池袋へは、西武池袋線の所沢駅から乗り換え時間を含めても最短で約40分でアクセスが可能となっており、通勤、通学者を中心に一日約4万1千人が乗降する交通の要衝となっています。

本市のバスについては、西武池袋線の稲荷山公園駅をはじめ、入間市駅、飯能駅等の近隣主要駅に接続しているなど、市内4駅から27系統のバスが運行しているほか、市内8コースを循環する「茶の花号」を運行するなど、利便性の高い交通手段となっています。

図表 道路交通網



(出典) 第4次狭山市総合計画基本構想「都市構造図」より

## 2. 市の人口特性

## (1) 市の人口推移

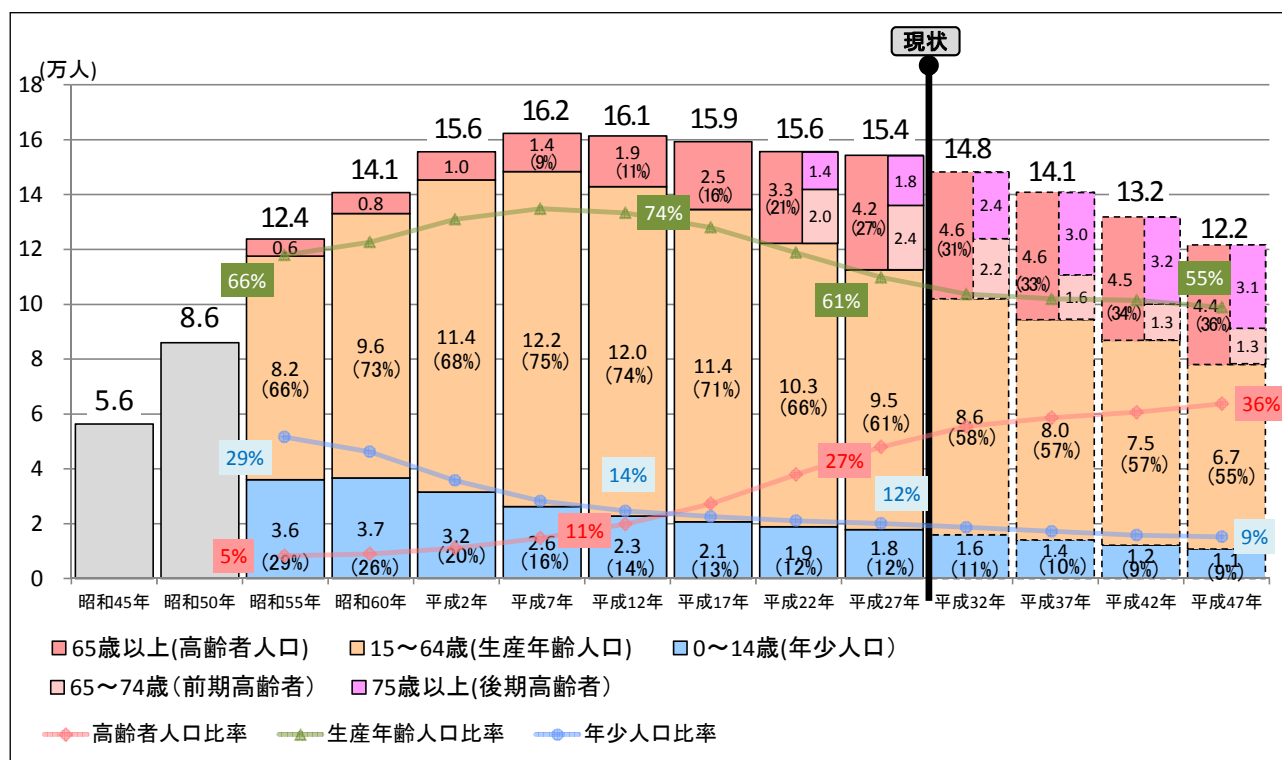
## ■ 3 階層別人口推移及び将来予測

本市の総人口は、平成7年の約16.2万人をピークに減少傾向にあり、平成27年では約15.4万人となっています。今後20年はさらに減少傾向が進行し、平成47年には昭和55年当時の人口に近い約12.2万人となり、約21%の減少となることが推計されています。

年齢階層別の人口を比較すると、昭和55年では構成比66%であった生産年齢人口（15～64歳）は、その後増加したものの、平成47年では構成比55%まで低下し、約1.5万人の減少となることが推計されています。また、昭和55年で年少人口比率は29%、高齢者人口比率は5%であったのが、平成47年では、年少人口比率は9%と約2.5万人の減少、高齢者人口比率は36%と7倍近い水準となり、約3.8万人増加することが推計されています。さらに、平成32年を境に、前期高齢者と後期高齢者の割合が逆転しています。

こうした将来人口の規模、構成の大きな変化は、公共施設サービス需要の量と内容に大きな影響を与えるものと考えられる他、生産年齢人口の減少は個人市民税収の減少を通じて、財政制約の一層の強まりにつながってくることが想定されます。

図表 年齢階層別人口推移（実績・将来推計）



(出典) 昭和55年：国勢調査、昭和60年～平成27年：世帯と人口（1月1日）、H32年～：狭山市人口推計

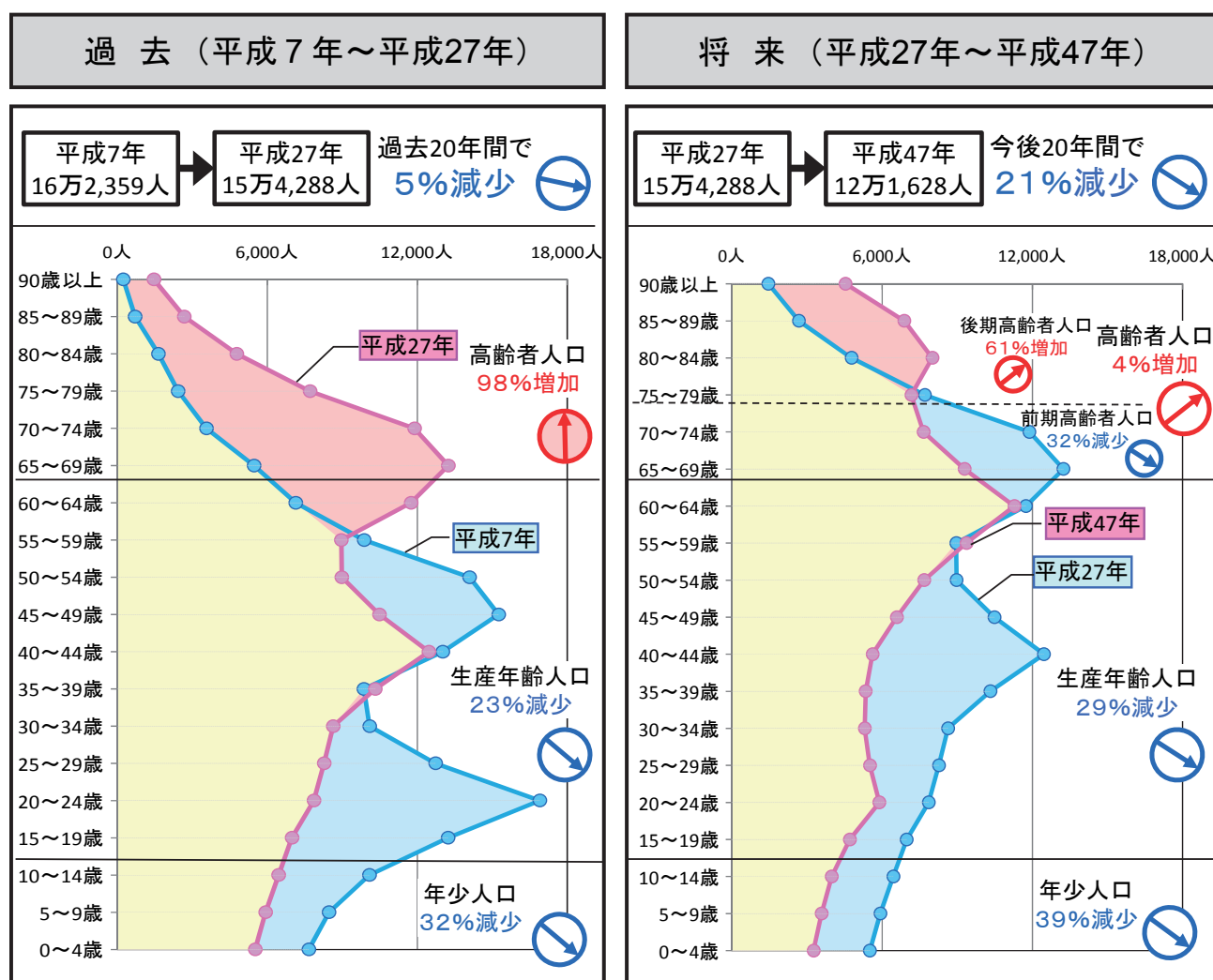
## ■ 5 歳階級別人口推移及び将来予測

平成7年から平成27年までの20年間の実績と平成47年までの今後20年間の推計を5歳階級別にみると、これまでの20年間は60歳以上の人口が約2倍に増加する一方で、60歳未満の人口は2から3割減少となりました。

今後20年間、市全体の人口が減少するなかで、75歳以上の高齢者は増加しますが、75歳未満のすべての世代で大幅な減少が推計され、より少子高齢化が予測されます。

このように、今後20年間の人口構成の変化は大きく、求められる行政サービスの変化に対応する必要があります。

図表 5 歳階級別の人口推移及び将来人口推計



（出典）平成7・27年：1月1日、平成47年：狭山市人口推計



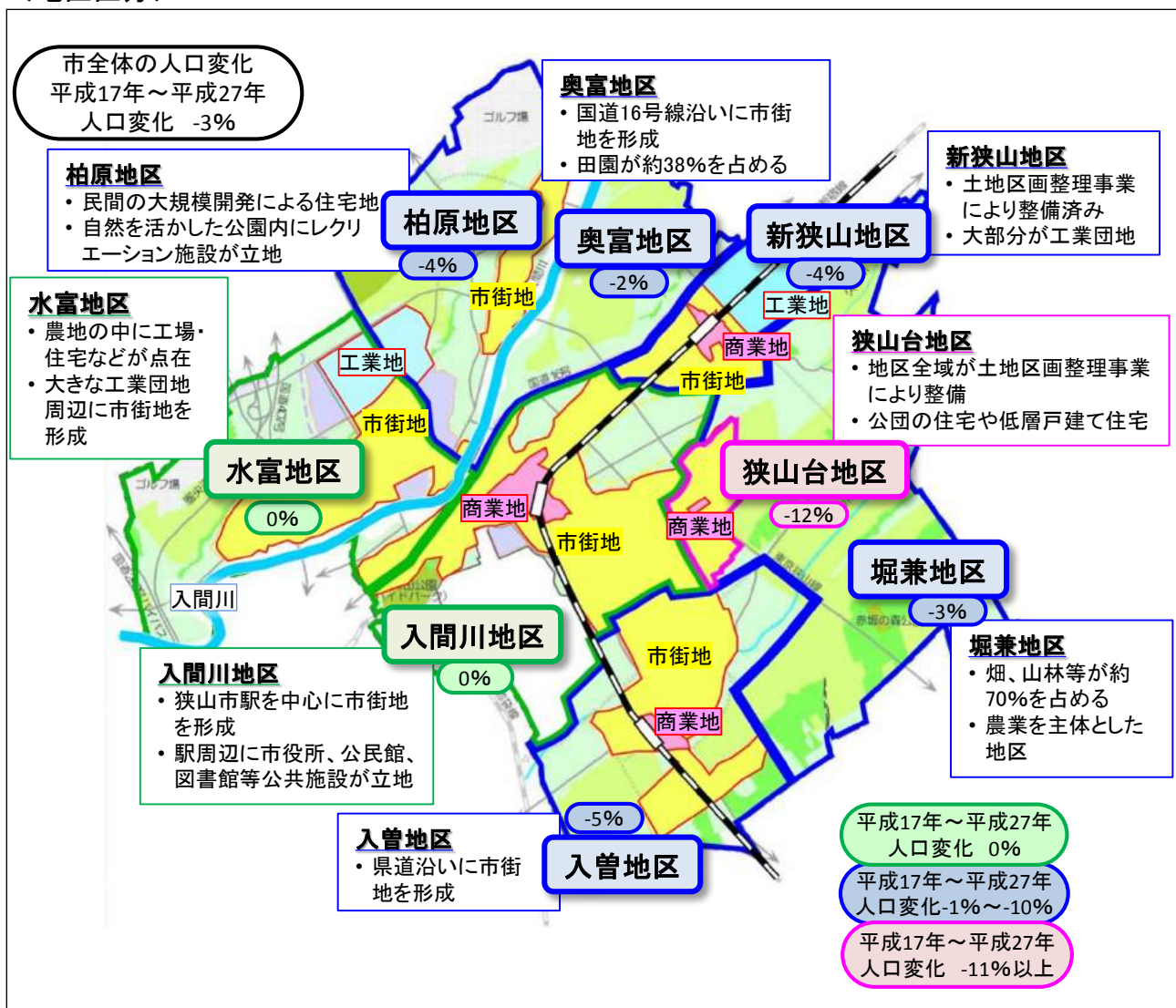
### 3. 地区等の特性

#### (1) 地区区分

本市は、「狭山市都市計画マスタープラン」で8地区に区分されています。

8地区は、大きな工業団地がある水富地区、自然を活かした公園内にレクリエーション施設が立地している柏原地区、国道や県道沿いに市街地を形成している奥富地区、入曽地区、土地区画整理事業により整備されている新狭山地区、狭山台地区、狭山市駅を中心に市街地を形成している入間川地区、畑・山林等が約70%を占めている堀兼地区となっています。

#### <地区区分>



(出典) 狭山市都市計画マスタープラン

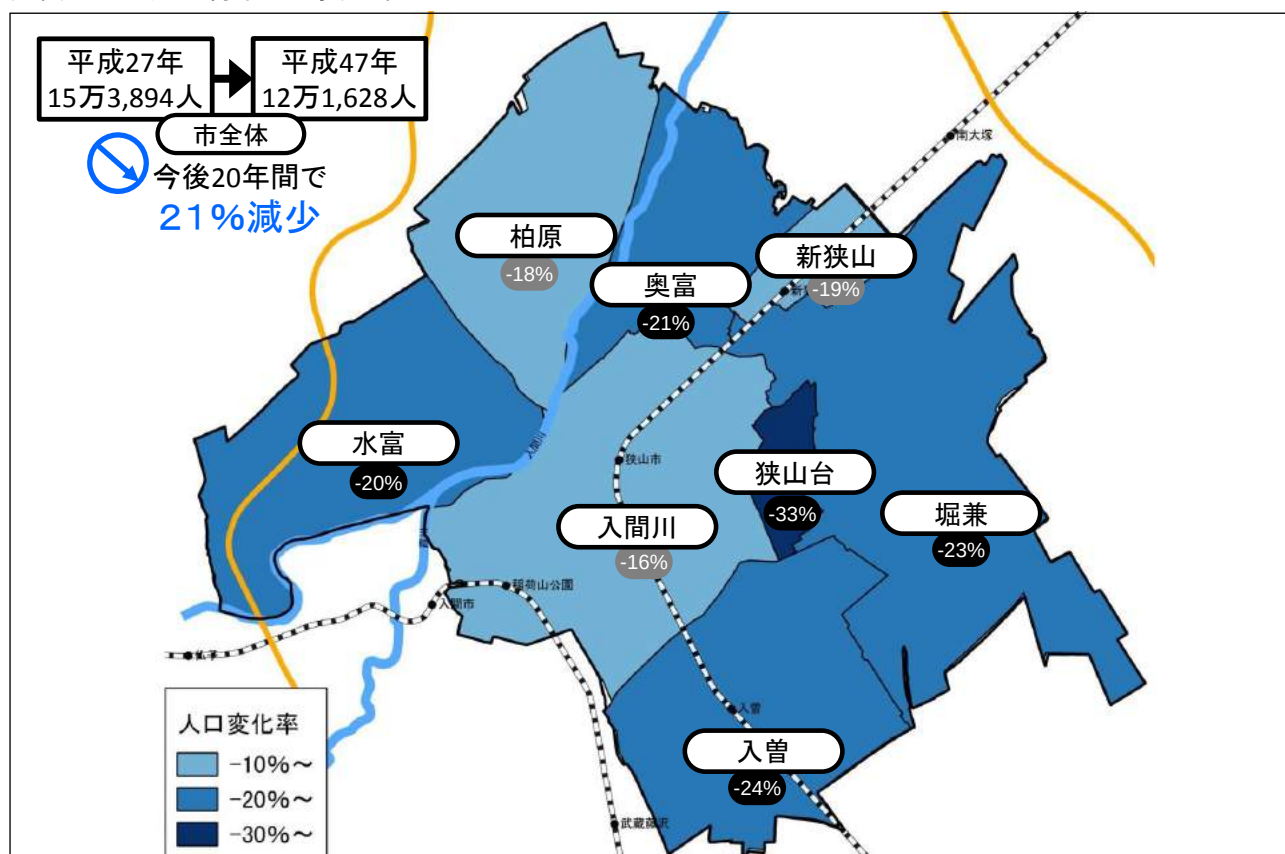


## (2) 地区別・年齢階層別の人口の状況

## ＜将来人口変化＞

平成27年から平成47年までの地区別の人口変化をみると、全地区で減少傾向にあると予想されます。特に、狭山台地区は33%減少と最も大きく減少することが推計されています。

図表 地区別の将来人口変化率



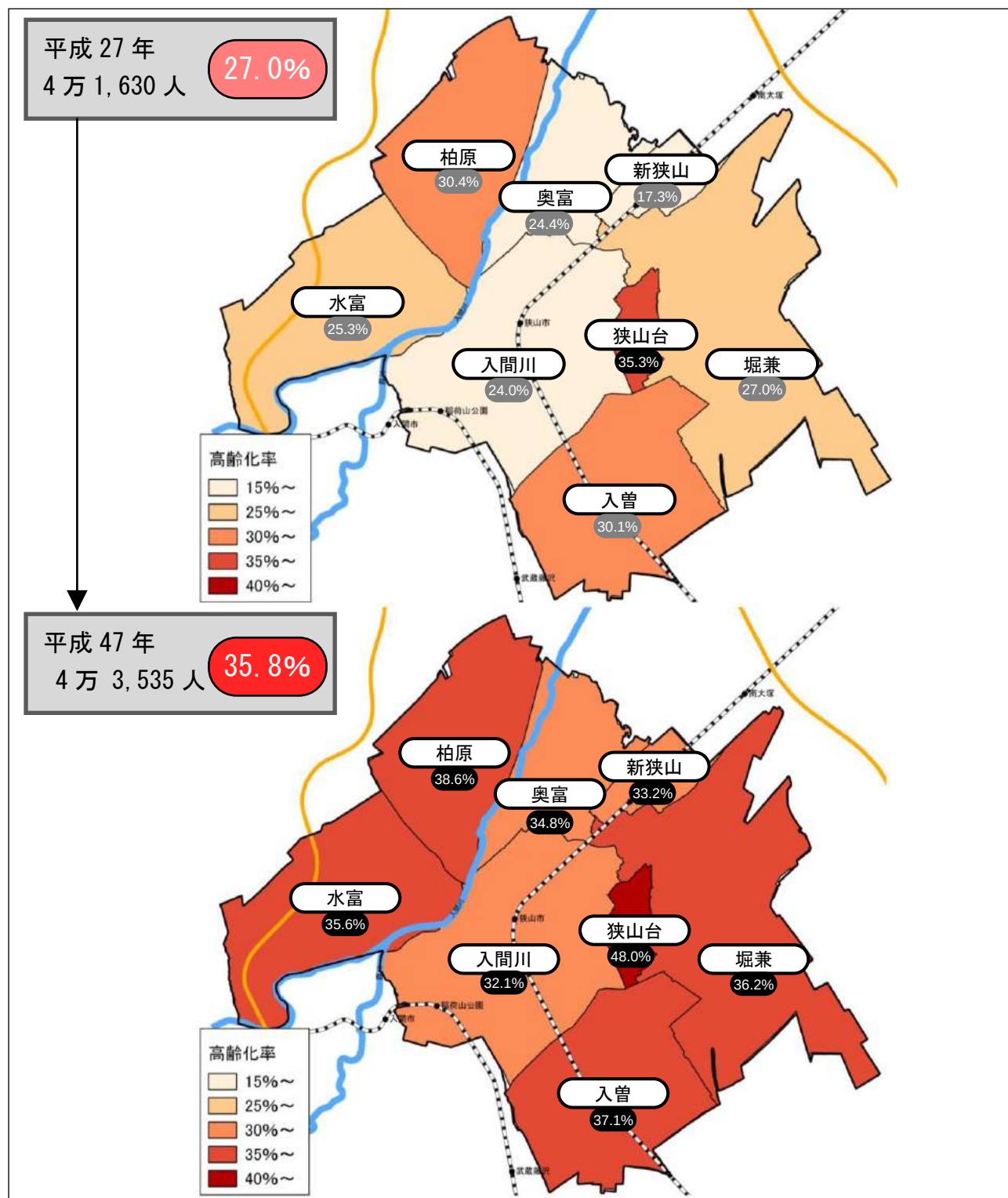
|       | 平成27年   | 平成32年 | 平成37年 | 平成42年 | 平成47年 |
|-------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 全体    | 153,894 | -4%   | -9%   | -14%  | -21%  |
| 入間川地区 | 45,755  | -3%   | -6%   | -11%  | -16%  |
| 入曽地区  | 35,625  | -4%   | -10%  | -17%  | -24%  |
| 堀兼地区  | 15,108  | -4%   | -10%  | -16%  | -23%  |
| 奥富地区  | 6,217   | -4%   | -9%   | -15%  | -21%  |
| 柏原地区  | 12,234  | -3%   | -7%   | -12%  | -18%  |
| 水富地区  | 22,399  | -3%   | -8%   | -14%  | -20%  |
| 新狭山地区 | 5,324   | -3%   | -8%   | -12%  | -19%  |
| 狭山台地区 | 11,232  | -6%   | -14%  | -24%  | -33%  |

(出典) 狭山市人口推計

### ＜高齢化率＞

平成 27 年の 60 歳以上の高齢化率は、市全体で 27%であり、最も高い狭山台地区は 35%となっています。平成 47 年には市全体の高齢化率は 36%まで増加し、地区別の高齢化率でも全地域が 30%を超えることが推計されています。特に、狭山台地区では人口の約半数が高齢者になると推計されています。

図表 地区別高齢化率の変化



(出典) 狭山市人口推計

第1章のまとめ

## ● 市の概況について

- ◆ 市域の面積は48.99km<sup>2</sup>、埼玉県南西部にあって東京都心から35kmから40kmの距離に位置していることから、立地条件にも恵まれています。
- ◆ 本市は、夜間人口が昼間人口を6%上回る、流出超過都市となっています。流出人口は、4.4万人で夜間人口の約28%を占め、東京都23区や周辺市町へ流出しており、本市は周辺市町の就業の場であるとともに、東京都のベッドタウンとしての2つの性格を有する都市であることがわかります。

## ● 人口について

- ◆ 本市の総人口は、平成7年の約16.2万人をピークに減少傾向となっており、平成27年には約15.4万人です。今後20年はさらに減少傾向が進行し、平成47年には昭和55年当時の人口に近い約12.2万人となり、約21%の減少となることが推計されています。
- ◆ 年齢階層別の人口では、生産年齢人口（15～64歳）は、平成47年には構成比55%まで低下し、昭和55年と比べて約1.5万人の減少となることが推計されています。年少人口（0～14歳）は、構成比9%と約2.5万人の減少、高齢者人口（65歳以上）は、構成比36%と7倍近い水準となり、約3.8万人増加することが推計されています。
- ◆ 地区別では、全地区で減少傾向にあると予想されます。特に、狭山台地区は33%減少と最も大きく減少することが推計されています。高齢化率に着目すると、全地域で30%を超えることが推計されており、特に、狭山台地区では人口の約半数が高齢者になると推計されています。